知的資産経営報告書2012

シクヤ製陶所

目次

1. シクヤ製陶所の思い

2. 経営理念

3. 事業概要

4. 過去から現在　沿革

5. 保有する知的資産

（1）カエルづくり４５年が生み出すこだわりと独自性
（2）手塗りの良さを活かした独自の発色
（3）小物の存在感を引き立たせる細密製造技術
（4）原型～製造までの一貫生産による柔軟でキメ細かい対応力
（5）カエルマニア（カエラー）とのネットワーク・情報発信力

6. 将来展望

7. 会社概要

8. 連絡先

1．シクヤ製陶所の思い

信楽焼と言えばタヌキのイメージが強いですが、その他にも動物の置き物として茶色い伊羅保（イラボ）釉のカエルは「信楽焼のカエルですね」と全国で言われるほど有名です。実はその信楽焼のカエルのほとんどはシクヤ製陶所で製造したものなのです。
当社は二代に渡り、45年間カエルにこだわり、大小様々なカエルを製造している窯元です。

カエルは、タヌキ、ふくろう同様に縁起物として扱われ、ご家庭の庭や玄関、お店の入り口などに置かれております。
ここ近年ではカエルコレクター（カエラー）が増え、そのような方々から 玄関先やお庭に飾られているような 縁起物の置き物だけではなく、マスコットのように愛くるしいカエルを求められるようになったり、食器や小物入れやキーホルダなど、ひとのそばで癒しのアイテムとしても必要とされるようになり、同時に様々な風合いや、形、大きさなどお客さまから求められるようになってきています。

以前は、取引先として地元陶器小売店や地元問屋からのニーズにしかお答えできなかったメーカーでありましたが、さらにこれからは、エンドユーザーやカエラーからの直接のお声を頂けるように様々な場に出向き、細やかなニーズにもお答えしていけるようネットワークを活かしながら、カエルを通じてひととの繋がりと幸せをお届けできるようなカエルづくりに邁進していきたいと思っています。

シクヤ製陶所

宇田 安利

2．　経営理念

シクヤ製陶所のカエルとのこだわり

カエルを通じてお客さまにひととの繋がりと幸せを！

信楽を流れる大戸川を遡り、聖武天皇の御代より陶都信楽に生息すると伝えられる、信楽ガマ（蛙）は「福帰る」と呼ばれ幸福をもたらすといわれます。

信楽蛙八相縁起

口・大きく開き。ボヤ・吸いがらなどパックっと呑み込み火災予防
腹・ヘソがないため雷が落ちない、落雷予防
食物・毒蚊や害虫を好んで食しますので害虫予防、無病息災
皮膚・色彩は信楽焼のイラボ釉、保護色でり、災難を避ける
子蛙・子はしっかりと親の背中を見てすくすく育つ
冬眠・睡眠、休養はしっかりとり、心身の修養垂範
前足・構えた脚は威風堂々、礼節を知る
後足・常に待機し、いざなる時は跳蹴前進

シクヤはこころを込めてカエルをつくります。

カエルを通じてひとの気持ちを繋げます。

シクヤ製陶所のものづくり

3．事業概要

シクヤ製陶所では、カエルをモチーフとした置物を制作しており、小指の先ほどの小さなものから1mちかい大物まで幅広く取り揃えています。
当製陶所では「原型作り→石膏型の制作→自社ブレンドのオリジナル粘土→職人による成型→色付け（手塗り）→焼成」のすべての工程を一貫して自社で行なっており、お客様の細やかな要求に柔軟に対応できます。

サイズは豆蛙から最大の蛙まで21種類

シクヤならではの一貫製法

石膏型作り

職人による成型 （タタラ、型押し、鋳込み成型など）

色付け（手塗り）

窯出し

シクヤが創るカエルワールド

本物に近いリアルなカエル

ラクダに乗ったカエル

「逆立ちカエル」

ご結婚されたお二人のためだけに

干支と蛙のコラボ

お雛さま

タヌキ＆蛙

いろんな可愛い系カエル達

お客さまからの要望で制作

シクヤが創るカエルワールド

シクヤの事務所カウンター
いろんな小物のカエルでいっぱい

ペン立て（小物入れ）
作品名（開いた口がふさがらん）

カエルのお雛様

タヌキとカエルのコラボ作品「ケロポン」

文字入れ

信楽陶器総合展

しがらきいまどき蚊遣り器展2011出展・特別賞
作品名：ノッてる蚊い！

四日市萬古陶磁器コンペ2012動物自由部門に出展・入選
作品名：天使とお地蔵さま

4．過去から現在　沿革

年月日	創業から現在までの出来事	蓄積したノウハウ、人脈、信用力など
1916年	● 初代宇田亮三郎の妻「とく」の旧姓である「宿谷」（しゅくたに）から命名。当時はコメ屋として商いをしていた。	
1953年	● 3男である宇田商亮が植木鉢や火鉢の生地屋（なま屋）をはじめる。	
1967年7月	● 工場を建設。電気窯を作り、シクヤ製陶所を設立。 ● 自らカエルのオリジナルを初の電気窯にて制作。 ● 地元問屋に好評で、サイズ的に大小様々なカエル制作を開始。	● オリジナルのブレンドによる釉薬（伊羅保釉）で独自の発色を実現 。 ● 当時としては類を見ない19種類の大きさを制作。
1975年 5月27日	● 昭和天皇皇后両陛下が信楽訪問の際、シクヤ製陶所の豆カエルを気に入り持ち帰る。翌週の読売新聞や皇室アルバムに掲載され、全国的な知名度を得る。	● 新聞や皇室アルバムに掲載されたのをきっかけに二見ヶ浦や下呂温泉などの名物となり各地カエルの土産ものにもなる。
1983年	● 信楽焼総合カタログに掲載	● カタログ掲載を機にホームセンターなど、園芸品の分野などにもより一層販路が広がる
	● ユーザーからの要望で、口アキ蛙、子どもが5匹乗った「むかえる」やオリベ釉の青蛙などのバリエーションが増加	● 製品ラインナップが拡充し、顧客層が広がった。
1990年	● 過去の実績と品質を認められ秋篠宮文仁親王ご成婚の際に3尺蛙を県から御購入 。	● 皇室への陳状などにより、一層信用力が上がる。
2000年	● 東京のネットショップの”あすネット”にて、シクヤ製陶所が紹介される。	● 今まで製造者が表に出ることのなかった陶器の置物の世界で始めて、公に紹介された。
2005年	● 女性スタッフの提案により、色のバリエーションが増加。若年層にも関心をもたれるようになり、かわいい系の蛙の制作にも取り掛かる。	● 様々な色、大きさのバリエーションが増えることで新たなジャンルの蛙づくりのきっかけとなる。
	● カエルコレクターの高山ビッキさまからの依頼によりカエル専門紙「カエルタイムズ創刊号」に寄稿。 ● この頃からカエル好き、カエルマニアなどを「カエラー」と呼ぶようになる。 ● 従来の信楽焼陶器の枠に縛られない独自性のある作品づくりを志向するようになる。	● カエルコレクターとの人的ネットワークが拡充する。 ● 専門誌掲載を契機に「信楽焼のカエル＝シクヤ」というブランド構築の第一歩となる。
2007年	● 書籍「カエラーたちのつぶやき」に掲載される。	● シクヤの認知度が向上。
	● 各地のカエルイベントを視察し、ファンの反応を実感	● 新たな創作活動のひらめきを得る。
2011年～	● シクヤ製陶所として松本カエルまつりを皮切りに作家市、セラミックアートマーケット、テイバン展など、積極的に出展をすすめる。	● 今までの置き物としてではなく日常の中の道具として生活に密着してもらえる作品づくりとしての幅を広げる。
	● 直接、ユーザーとふれる中、従来のカエルの枠を超える新たなカエルづくりに挑戦している。	

シクヤの移り変わり

1967年までは窯を持たず植木鉢などの生地のみを製造。いわゆる「生屋（なまや）」

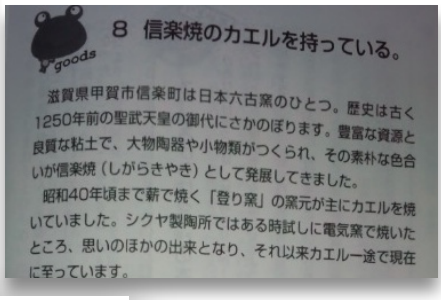
写真：機械ロクロで成型した植木鉢を天日で乾燥している風景（撮影：1960年）

1975年5月27日　昭和天皇皇后両陛下信楽訪問

陛下にとっては2度目の陶器の町信楽ご旅行。また皇后さまは、ご自分で陶芸家でもあり信楽焼の親子ガエルの置き物をご覧になって「ああこれは可愛い、1ついただいてもよいでしょうか」とおたずねになられ、5ミリの大きさのチビガエル5個をおみやげとしてお持帰りになった。天皇さまとタヌキ、皇后さまとカエル、信楽の旅でチラリと見せられた人間天皇、皇后両陛下の素顔がのぞかれた。製造元、シクヤ製陶所は、信楽町窯元としてカエルの大小を数10種を焼いている。皇后さまは、初めての信楽の旅であったが、天皇さまがタヌキを好まれたのに対し皇后さまは「大から小まであってなかなか可愛いですね」すっかりカエルがお気に入りになってお宿へお帰りになってからも机の上に並べて「あまりにもかわいいので、ついいただいてきた」と田中侍従に語られた。

「皇室アルバム記事より」

カエルファン向け書籍に掲載



カエルタイムズ創刊号（2005年4月25日発行）

定番の蛙以外にも様々なバリエーションのカエル

作家市・セラミックアートマーケット・藤森手づくり市・
松本かえるまつりなどに出店

５．保有する知的資産

(1)　カエルづくり４５年が生み出すこだわりと独自性

(2)　手塗りの良さを活かした独自の発色

(3)　小物の存在感を引き立たせる細密製造技術

(4)　原型～製造までの一貫生産による柔軟でキメ細かい対応力

(5)　カエルマニア（カエラー）とのネットワーク・情報発信力

写真：皇室アルバムより

（1）　カエルづくり４５年が生み出すこだわりと独自性

45年間の長きにわたり一貫してカエルづくりに取り組んでまいりました。
シクヤ製陶所では、信楽焼の伝統を重んじながらも、時代にマッチした置物作りに取り組んでいます。

こだわりと匠の技　＋　柔軟性　＝　独自性

こだわりと匠の技

型押し成型

タタラ型押し成型

子蛙を乗せる工程

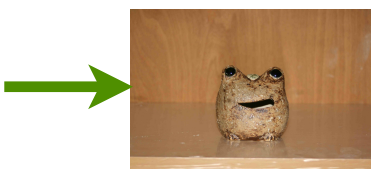
手足の取付は１本ずつ

豆蛙の目の色付け作業

＋

柔軟性

カラーバリエーションの充実



子どもさんが書いたイラストをもとに実際に制作

独自性

シクヤ製陶所の代表的な伊羅保釉

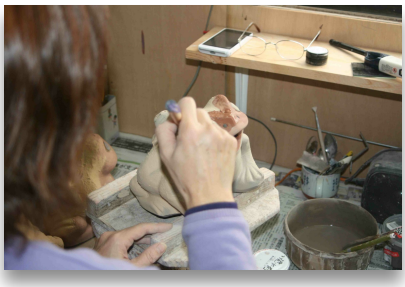
新たなジャンルへの挑戦

（2）　手塗りの良さを活かした独自の発色

信楽伝統の伊羅保釉カエルの独自の色合いは2種類の釉薬を重ね塗りすることで実現します。

2種類の釉薬の塗り加減には熟練された経験が必要です。

シクヤ製陶所の伊羅保釉カエルはすべて二層釉を手塗りで行なっているので1つひとつが独特の発色をします。釉薬の塗る厚みで発色が変わるため、繊細で熟練を要する技能です。
また、地元の地層から手掘りした原料を使用し、完全に自社オリジナルでブレンドされた秘伝の釉薬を使用しております。



・下地の「ドベ」（鉄分を含む下地）を塗ります。この釉薬の一部は地元の地層から採掘した原料を使用しております。

・この2種類の釉薬をバランス良く塗る加減には経験が必要です。

・上塗り用の「アク」を塗ります。土灰中心のブレンドとなっております。

（3）　小物の存在感を引き立たせる細密製造技術

豆カエルの制作

シクヤ製陶所で一番人気の豆カエルは手の込んだ細密製造技術を要します。
また、カエルの表情は目で決まります。この部分の色付けは特に難度が高く繊細さを要求されるため、熟練した職人が一つひとつ丁寧に作業を行なっています。

豆蛙の制作工程

小さくても一つひとつに
丁寧に手を掛けます。

型押し成型

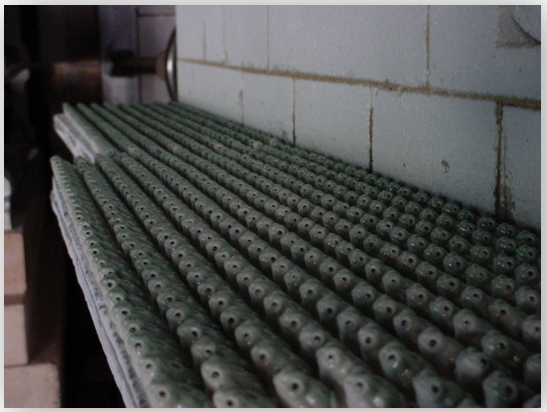
丁寧にバリ取りなどの仕上げ→乾燥

互い違いに並べて色付け（吹付け）

目付け作業・ひとつずつ丁寧に→焼成

カラーバリエーション展開

当初は豆蛙も織部釉（オリベ）一色だった



女性スタッフからの提案でカラーバリエーションが増え、好評を博しています。

風水蛙としても好評頂いています。

・ブルー：商売繁盛（お客様をむカエル、お客様で沸きカエル）・グリーン：開運厄除（転機をカエル、良き運勢にカエル）
・イエロー：金運招福（お金がカエル）・オレンジ：幸せ祈願（初心にカエル、相手の心が自分に振りカエル）
・ピンク：健康祈願（若ガエル　見ちガエル程元気になる）・バイオレット：合格祈願（ヤル気にカエル、良くかんガエル）
・織部：交通安全祈願（無事カエル）

(4)　原型～製造までの一貫生産による柔軟でキメ細かい対応力

すべての工程を自社で行なっています。

最も時間と手間のかかる型制作を自社内に取り込み、原型～製造までの一貫生産を実現することで、高品質で柔軟な製品づくりが行えます。

原型づくり　要望にお答えして大小様々なサイズに対応します。

石膏型づくり　自社で製作するため小ロットにも柔軟に対応できます。

製作　成型方法については型押し、大きいものならタタラ成型、その他、鋳込み成型にも対応します。

型押し成型

大物はタタラで成型

子付け作業

鋳込み成型

精釉　精釉（薬掛け、色塗り）手塗りの良さは細かいところまで丁寧に塗り分けることができる点です。

窯詰め

焼成

窯出し　焼成プロセス（温度、雰囲気）は全て標準化し、窯詰めはその時の品物の形、サイズに応じて毎回棚組を変え、柔軟に対応しています。

出会いと交流、そしてネットワークを大切にしています。

カエラーとの交流から生まれる作品

カエルファンが集うイベントや作家市などに参加し、お客さまとの直接なコンタクトをすることで様々な反応を頂き、交流の中からヒントを頂いて今後のものづくりに役立てております。

お客さまとの直接なコンタクトの場

藤森手づくり市

毎月一回開催されています

しがらき作家市

全国のカエルファンが集う松本かえるまつり

カエル大明神

信楽セラミックアートマーケット

T・E・I・B・A・N展

東京でお客さまの前でカエル作りを実演しました。

お客さまからの提案で生まれたカエルたち

最初は串刺し用の蛙から要望頂き、爪楊枝立てを製作

スマートフォンピアス

お雛さま

ティッシュカバー

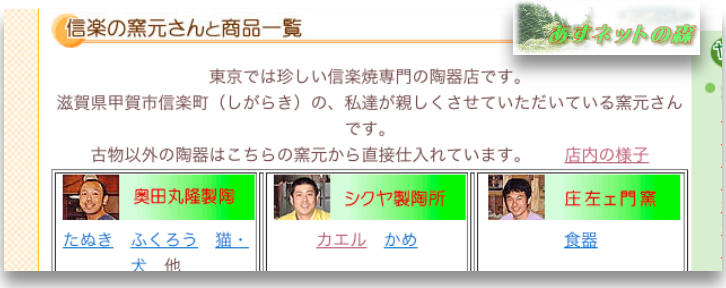
カエルを通じて人とひととのネットワークを大切にしています。

お取引先

あすネット株式会社さま

信楽焼をネット販売されているあすネットさん。ホームページ起ち上げからのお付き合いで、ネット販売からの情報などを細やかに提供頂いております。

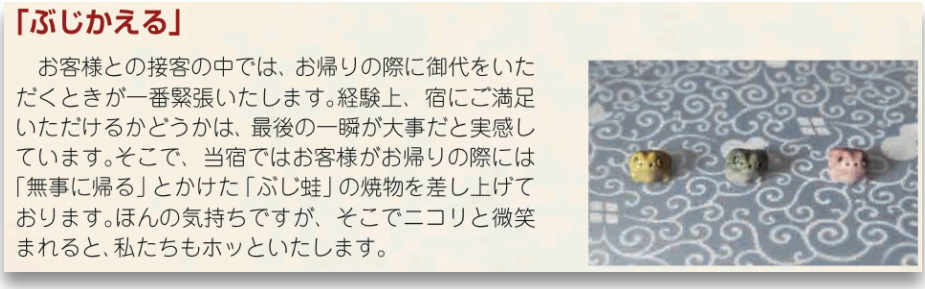
URL：www.asunet.net



有限会社小川亭さま

信楽の料理旅館小川亭さんでは20年前よりお客さまにサービスとして豆蛙をお渡し下さっています。店主さまもお客さまがお帰りの際お渡しされる時の喜ばれる笑顔を見るのが楽しみだそうです。

URL：www.shigaraki.co.jp



カエラーたちのカリスマ的存在との出会い

高山氏との出会いは、2005年の1月頃、全国でもカエルコレクターとして有名である高山氏が所有されている信楽焼蛙について問合せがあった。それをきっかけに交流が始まった。

高山ビッキ　プロフィール
福島県喜多方市出身。百貨店、マーケティング関係の研究所を経てライター・エディターに。本業の傍ら、祖父が始めたカエルのモノの蒐集を姉とともに受け継ぎ、現在、100年カエル館の学芸員、カエルタイムズの編集長を務める。100年カエル館のHPではWebカエ～ル大学を運営する。また、2012年10月には著書「かえるる カエルLOVE111」が発売される。

信楽焼のカエルに思うこと

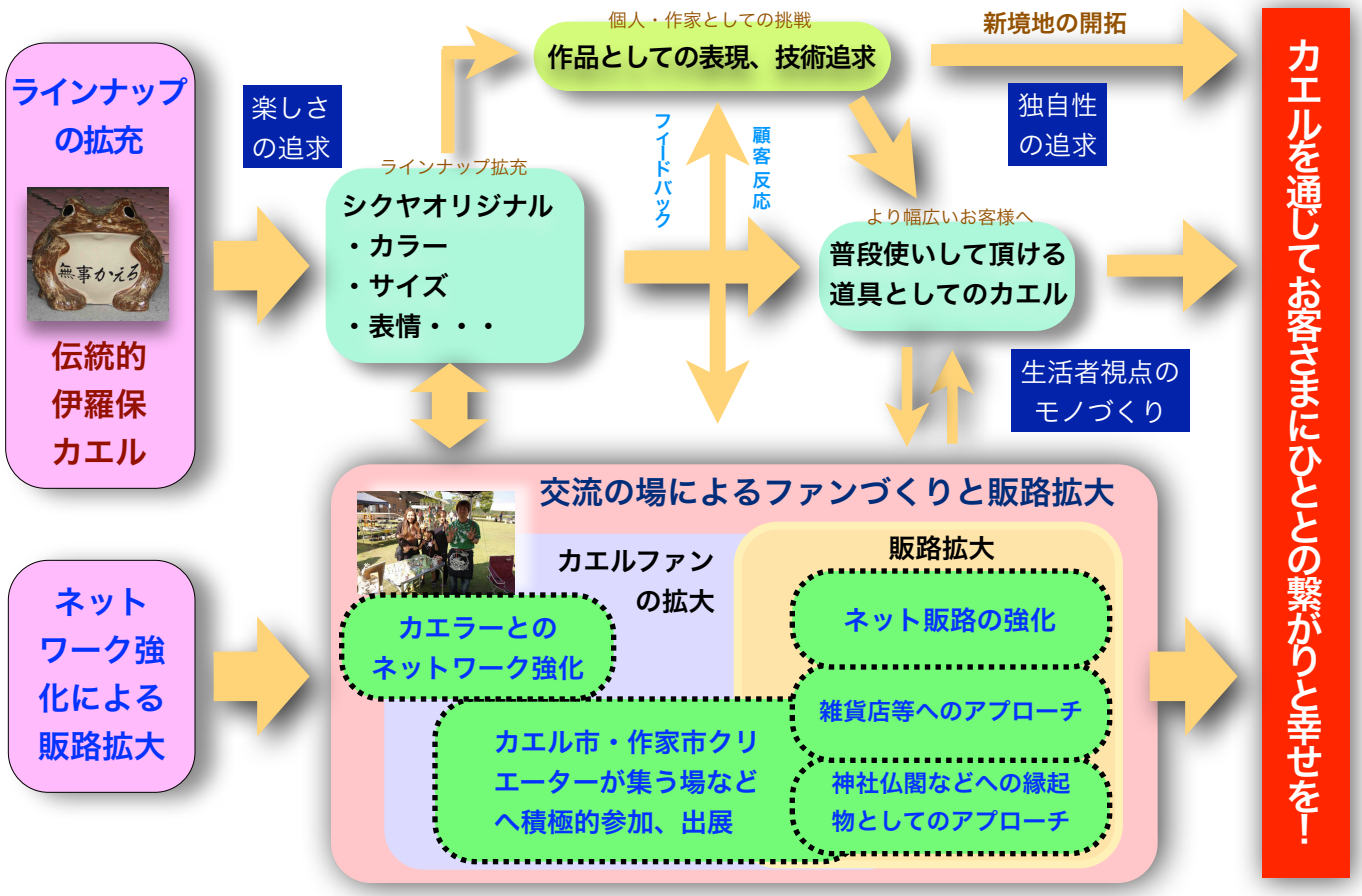
私の場合、カエルのもの（置物から実用品まで）との関わりが長く、祖父の代に遡ります。信楽焼のカエルも子どもの頃から身近な存在でした。今ではカエルグッズ、そしてカエルと人の関わりから生まれた文化は、私自身の情報発信や活動のメインテーマとなっています。私たちの信楽焼のカエル・コレクションは、友人知人に贈られたものも含め、親子三代という時間経過によって味わい深いものになっていると思います。改めて展示してみると、信楽焼のカエルが大小さまざまひとつところに集合している様子は、毎年、繁殖期の沼地に集まるアズマヒキガエルの“カエル合戦”のようでもあります。カエルのものづくりの大元に何らかの形で自然界のカエルの生態が生きていることの面白さを見る思いでした。

シクヤ製陶所さんのカエルが昭和40年代以降、時代の変化と伝統あるものづくりの両方を真摯に受けとめながら産み出されていることがわかります。その姿勢は、昨今増えているカエラーさんなどカエル好きの方々の期待に充分応えるものだと思います。高度経済成長期には「商売繁盛」のシンボルでもあった信楽焼のカエルが、21世紀にはその生物本来の繁殖力を内に秘め、新しい家族をシンボライズするものになるという考え方です。それはたぶん日本のみならず世界を視野に入れたマーケットを切り開いてくれるのではないでしょうか。信楽焼のカエルが、世界中の家族みんなの幸せを守るフレンドリーな存在になれば、まさにハッピーフロッグとしてジャンプすることができると思います。　　100年カエル館副館長　高山ビッキ

URL：kaeru-kan.com

6．将来展望

お客さま「人」と「ひと」を繋げるものづくり。そしてお客さまとの距離を縮め、必要とされるもの「カエル」づくりに取り組んでいきたいと考えています。



実現に向けた課題	具体的な取り組み	
1．商品ラインナップの拡充		つくる
①カラー、スタイルの拡充による楽しさの追求	✱ 各サイズのカラーバリエーションの拡充 ✱ かわいい系のカエルの拡充	
②生活者視点のモノづくり（脱置物）	✱ アイデイアを活かした生活雑貨としてのカエルの制作と商品化	
③独自性のある作品づくり	✱ 一品ものとして技術力、表現追求するものづくりへの挑戦 ✱ コンペなどへの積極的な出展	
2．ネットワークの強化によるプロモーション基盤の構築		見る・聞く・発信
①インターネットの活用による情報発信の活発化	✱ ブログ、Facebookなどを活用し、イベントの事前告知 定期的な更新、 普段のシクヤの制作風景や作品の紹介や新作などのお知らせ。また、取引先やカエラーなどとの相互リンク ✱ 知的資産報告書を基にした自社の紹介、ホームページの制作	
②コミュニティを活用した自社のファンづくり	✱ イベントへの参加によるエンドユーザーやカエラーからの情報収集 ✱ クリエーターが集う場やコンペなどへの参加、出展 ✱ イベント参加時などからの記帳による顧客リストの作成 ✱ カエラー同士の交流からカエルに特化した情報の収集 ✱ ネットワークや交流から生まれる信頼関係からの積極的販路開拓	

7．会社概要

会社名	シクヤ製陶所
代表者	宇田　商亮
従業員	5名
事業内容	陶器製造
本社	〒529-1851 滋賀県甲賀市信楽町長野 820-3
電話	0748-82-0096
FAX	0748-82-2149
メール	kaeruya@ares.eonet.ne.jp
営業時間	9:00～17:00

8．連絡先

本報告書に関するお問い合わせ先

シクヤ製陶所
担当者：宇田　安利
TEL ：0748-82-0096 / FAX ：0748-82-2149
E-mail：kaeruya@ares.eonet.ne.jp

①知的資産とは
「知的資産」とは、従来のバランスシートに記載されている資産以外の無形の資産であり、企業における競争力の源泉である人材、技術、技能、知的財産（特許・ブランドなど）、組織力、経営理念、顧客とのネットワークなど、財務諸表には表れてこない、目に見えにくい経営資源の総称を意味します。

「知的資産経営報告書」とは、目に見えにくい経営資源、すなわち非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー（利害関係者）に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動（価値創造戦略）として目に見える形で分かりやすく伝え、企業の将来性に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。経済産業省から平成17年10月に「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、本報告書は原則としてこれに準拠して作成しております。

②知的資産経営報告書とは
本知的資産経営報告書に掲載しました将来の経営戦略及び事業計画並びに附帯する事業見込みなどは、すべて現在入手可能な情報をもとに、当社の判断にて記載しております。そのため、将来に亘り当社を取り巻く経営環境（内部環境及び外部環境）の変化によって、これらの記載内容などを変更すべき必要が生じることもあり、その際には、本報告書の内容が将来実施又は実現する内容と異なる可能性もあります。よって、本報告書に掲載した内容や数値などを、当社が将来に亘って保証するものではないことを、十分にご了承願います。

③作成支援・監修専門家
本知的資産経営報告書の作成にあたっては、本書記載内容につき、その客観性を維持・向上させる趣旨から、次に掲げる専門家のご支援・ご監修を賜りました。

滋賀県中小企業団体中央会　中小企業支援ネットワーク強化事業
登録専門家　中小企業診断士　顯谷　敏也
中小企業支援ネットワーク機関：滋賀県中小企業団体中央会　中嶋　和繁

信楽蛙八相

信楽を流れる大戸川を遡り、聖武天皇の御代より陶都信楽に生息すると伝えられる、信楽ガマ（蛙）は「福帰る」と呼ばれ幸福をもたらすといわれます。

「口」　大きく開き。ボヤ・吸いがらなどパックっと呑み込み火災予防

「腹」　ヘソがないため雷が落ちない、落雷予防

「食物」　毒蚊や害虫を好んで食しますので害虫予防、無病息災

「皮膚」　色彩は信楽焼のイラボ釉、保護色でり、災難を避ける

「子蛙」　子はしっかりと親の背中を見てすくすく育つ

「冬眠」　睡眠、休養はしっかりとり、心身の修養垂範

「前足」　構えた脚は威風堂々、礼節を知る

「後足」　常に待機し、いざなる時は跳躍前進

シクヤ製陶所
TEL: 0748-82-0096